

「トラフィック」
"TRAFFIC" ●●第2回



第73回アカデミー賞の主要5部門にノミネートされた
スティーブン・ソダーバーグ監督の最高傑作。日本ヘラルド映画配給。
4月28日から丸の内ピカデリーほか全国の松竹・東急系で公開。

“We all have our weak side.” 「われわれにはみんな弱点があるものです」

映画にはスタイリッシュな会話が詰まっている。
今回の舞台は巨大麻薬コネクション。
いやおうなく麻薬取引に巻き込まれていく人たちの、
命を賭したセリフの数々。

文=中野香織



ごきげんよう。年間を通して最も向学心が旺盛
かもしれないこの季節には、ハードな社会問題に
迫る映画を選んでみたいものです。そこで本日と
りあげますのは、スティーブン・ソダーバーグ監
督の『トラフィック』。タイトルの『トラフィック
(Traffic)』とは非合法の取引、この場合は麻薬の密
売買を意味します。

映画では3つの話が同時進行していきます。メ
キシコ編は、巨大麻薬組織と腐敗した警察機構の
コネクションに呑み込まれることなく立ち向かう
一警官をめぐる話。アメリカ・サンディエゴ編は、
麻薬取締局(Drug Enforcement Administration, DEA)
に夫が逮捕されてはじめて夫の商売を知り、生活
を守るために取敢えて麻薬ビジネスに手を染めてい
く妊婦をめぐる話。そしてオハイオ編は、麻薬取
締連邦最高責任者に任命されながらも、優等生の
娘が重度の麻薬中毒患者へと転落していくのを止
められない父をめぐる話。

それぞれの話は全く独立したストーリーです。
しかし、否応なしに麻薬問題に巻き込まれていく
人々のきわめて個人的な闘いを描くことによって、
逆にすべての物語の背後にある巨大な麻薬取引の
システムをうかがいあがらせるという仕掛けになっ
ています。同時進行する3つの話をフォローする
のは観客にとっても試練ですが、メキシコ編は黄
色くざらついた感じの映像、サンディエゴ編は暖
色を多用した鮮明な映像、オハイオ編は寒々とし
たブルーのフィルターがかかったような映像、と
それぞれ特色の強い映像で描き分けられているた
め、場面が切り替わってもすんなりと話に入って
いくことができます。巧みなやり方です。

ソダーバーグは麻薬問題に関してモラルを押し
付けるわけでも政府批判をするわけでもない。複
雑で矛盾だらけの現状をドキュメンタリーの様
に提示しようと試みています。リアリズムっぽい
テイストを重視すればメキシコ編のセリフは当然、

スペイン語。したがって日本で上映されるフィル
ムでは、英語と日本語、両方の字幕が映しだされ
ることになります。

そんなメキシコ編の字幕英語にはスタイリッシ
ュな会話が満載ですが、なかでも、あらゆる言語
圏で応用可能と思われる、ひときわ印象的なやり
とりを一つ紹介します。狸おやじのサラサル将
軍(トマス・ミリアン)と、メキシコの警察官ハビ
エル(ベニシオ・デル・トロ)の会話です。プロの
殺し屋フランシスコを連れてこい、という将軍の
命令に、ハビエルはなんとゲイバーに行って殺し
屋を誘惑して連行してきます。誘惑シーンではセ
リフがほとんどありません。本来かなりあったセ
リフをベニシオが不要と判断して削除したそうデ
ス。さすがそこまでやるだけあって、ゲイを陥
落させるベニシオの一連のしぐさや表情はぞくぞ
くとするほど説得力があります。ゲイでない男でも
落ちてしまいそうな色気。という不気味ですが、
とにかく。殺し屋をそんな必殺の色気でもって
だまし、将軍のもとに連れていったハビエルと将
軍との会話が、たまらなく心憎いのであります。

**Salazar: It would be interesting to
know how you did it so quickly.**

「こんなに早く仕事を終わられた秘訣を知りたいも
のだな」

Javier: We all have our weak side.

「われわれにはみんな弱点があるものです」

**Salazar: The path of the Lord is very
subtle.**

「神の御技は精妙なかな」

Javier: Amen.

「アーメン(かくあれかし)」

他人の性的嗜好を具体的にどこど説明するの
は、洗練を知る男のすることではない。「われわれ

にはみんな弱点(weak side)がある」とさりりと一
般論を言うだけで特殊な性的嗜好を暗示するハビ
エルのセリフもかっこよければ、それを受けるサ
ラサル將軍のセリフがまた憎い。神のなさるこ
とははかりしれない。ホモセクシュアルも造化の
妙。いかにも説教師が言いそうなセリフを受ける
言葉は、「アーメン」。祈りの終わりに唱えられる
言葉としておなじみですが、その意味が「かくあ
れかし(So be it!)」であるということ知らな
かった人はけっこう多いかもしれません。

さて、メキシコ編では見せ場いっぱいベニシ
オ・デル・トロのハビエル警官のセリフからもう
一つ。メキシコの麻薬組織を壊滅するため、命の
危険を冒してDEAに重大な情報を提供する場面デ
ス。情報取引は英語で行われます。メキシコの組
織に命を狙われるおそれのあるハビエルを気づか
ってDEAの人間は身辺警護の話をするんですが、そ
のおやさしい心遣い、ないし余計なお世話に対し
て、ハビエルはこう答える。

**You worry about getting me what
want. I'll worry about myself.**

「あんたらはオレの報酬の心配をしてろ。オレの命
の心配はオレがする」

スペイン語訛りの英語でとつとつ話すハビエ
ルがまたかっこいい。母国語の訛りは、一本筋さ
え通っていけば、かえってアイデンティティを伝
え信頼を勝ちえる武器になることもあるという見
本がここにあります。「報酬」を得たハビエルの慎
ましい表情が、ひときわ深い余韻を残します。

麻薬問題など遠い世界のこと、と思っている観
客をもぐいぐい引き込む力をもった映画です。自
分の生活を支配する背後のシステムとは何だろう、
というところまで思いをめぐらさずにはいられな
くなる。傑作です。というわけで本日はこれまで。